

こども園における自己評価

八尾市立安中ひかりこども園

4:十分達成している 3:ほぼ達成している 2:検討を要する 1:改善を要する

項目	内容	評価	備考欄
教育・保育目標について	・目標の具体化に向け、乳幼児の実態を踏まえた重点目標を設定しているか	4	
	・目標は、各施設や地域の特徴を生かしているか	4	
	・目標は、社会の要請や保護者の願いを反映しているか	4	
	・目標は、前年度の反省を活かしながら全職員で検討し、かつ共通理解を図っているか	4	
教育・保育内容について	・指導計画は、教育保育計画に基づき作成しているか	4	
	・毎月の指導計画は、乳幼児の実態に即して作成しているか	4	
	・月ごとに指導計画の評価・見直しをし、その結果を指導計画に反映させているか	4	
	・1日の流れ（ディリープログラム等）は、前日の評価をもとに日々改善に努めているか	4	
	・行事のねらいに沿った計画を立て、適切に実施しているか	4	
	・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく援助・支援を適切に行っているか	4	
	・自主性や主体性を重んじて生活習慣が身につくようにしているか	4	
	・子どもの姿を見取り、興味関心に応じた教育・保育を行っているか	4	
	・子どもの発達や成長につながるよう環境の構成や援助の工夫をしているか	4	
	・同僚性を発揮し、保育のねらいや育てたい力を話し合い実践しているか	4	
	・素材・用具を適切に活用しているか	4	
	・保育サポートのための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮しているか	4	
	・子どもの人権に十分配慮し、互いに尊重する心を育てているか	4	

項目	内容	評価	備考欄
健康・安全について	・食育を通して、子どもたちが楽しく食べ、食べる意欲が育つように工夫しているか	4	
	・食物アレルギーは、個別に配慮して食事を提供しているか	4	
	・年齢に合った保健対策（発育・発達の把握、SIDS予防、感染症対策等）を講じているか	4	
	・健康・安全な生活に必要な習慣や態度が身につくよう取り組んでいるか また家庭への啓発を行っているか	4	
	・避難訓練や交通安全指導を、計画に基づいて適切に実施しているか	4	
	・乳幼児の安全確保のため、家庭・地域社会・関係機関等と連携を図っているか	4	
職員 の 資 質 向 上	・職員の研修ニーズを把握し、職員に必要な研修機会を確保しているか	4	
	・研究主題は、教育・保育目標の具現化につながるものであるか	4	
	・研究・研修の成果を日常の保育に生かし、乳幼児の育ちに反映させているか	4	
	・各種研究会、研修会、講習会での内容を園内に還元しているか	4	
職員 間 に 運 営 管 理 に 関 し て	・職務内容や相互の連携に必要な情報の共有方法が明確で、協働できる体制になっているか	4	・運営改善の課題については、職員間で定期的に検証・見直しをする点においてはもう少し努力が必要だった。
	・職員を適材適所に配置し、係や仕事の分担が能率的に行える組織になっているか	4	
	・各種会議や打合せを適切かつ効率的に進めているか	4	
	・職員は公務員としての責務や職場での立場を理解し、協力を惜しむことなく施設の運営にかかわっているか	4	
	・運営改善の課題について把握し、計画的な取り組みを行うとともに、定期的に検証・見直しをしているか	3	
守 秘 義 務 の 遵 守	・乳幼児や保護者に関する個人情報을適正に取り扱っているか	4	
	・公文書收受、発送、処理を適切に行っているか	4	
	・各表簿は、適切に作成、処理しているか	4	

項目		内容	評価	備考欄
開かれたこども園づくり	施設・地域との交流や連携	・他施設等との年間交流計画は、保育目標や課題に添ったものになっているか	4	・コロナ禍の影響を受けていた地域施設との交流や連携だが、少しずつできてきた。次年度については、再開をめざして取り組んでいきたい。
		・地域の様々な人と触れ合う中で、乳幼児が楽しく過ごし、充実感を味わうことができるような配慮や援助・支援を行っているか	3	
		・担当者同士が、事前打ち合わせや活動の振り返りを行い、互惠性のある交流になるように工夫しているか。	4	
		・合同研修や授業・保育の見学を通して互いの教育・保育に対して理解を深めているか	3	
		・乳幼児の興味や関心に基づいて地域の施設等を利用し、保育に活かしてしているか	4	
		・地域の行事に積極的に参加し、地域の文化や生活に触れているか	3	
		・子育て支援機関と情報共有しながら、連携をとっているか	4	
	子育て支援	・施設を開放し、地域の親子が遊べる場や機会の提供を行なっているか	4	
		・職員による「育児に係る子育て相談」は充実しているか	4	
		・医療機関、児童相談所等の専門機関と連携を図り、保護者にとって必要な情報を提供しているか	4	
		・一時預かり保育の利用者にとって安心できる場になるよう努めているか	4	
	情報の発信	・園だよりやクラスだより、ホームページ等で教育・保育内容を発信し、理解をしてもらうよう努めているか	4	
		・地域の連絡会等でこども園の取り組みを発信するとともに、地域施設の事業について知り、教育・保育の充実に役立っているか	4	
	外部評価	・第三者評価を導入し、施設運営に反映しているか	4	
・地域や保護者の意見を施設運営に反映しているか		4		
施設・設備	・施設内外の設備や遊具の安全点検を計画的に行っているか	4		
	・遊具や用具等を、活用しやすいように整理、保管しているか	4		
	・災害や不審者等に対応する整備を行っているか	4		
	・掲示板、掲示場所等を適切かつ効果的に活用しているか	4		
経理出納	・各種会計を適正かつ適切に処理しているか	4		

成果

(教育・保育内容)

○令和4年度は、幼児教育研究の委嘱を受け『かけがえのない一人ひとりを大切に ～あったかきで心つながるひかりっこ～』を研究テーマに、学識者の先生を招聘し研究を行った。その結果、保育者の「伝える力」「向上心」「保育の質の向上」「人権意識の向上」「同僚性」「学ぶ意欲」という項目で意識の変化が見られた。また、子どもたち同士でもあたたかいかわりが、あちらこちらでみられるようになった。

○保育者対象に実施している『自己評価』の集計結果にも表れたが、教育保育計画や指導計画等については、概ね8割の保育者が子どもたちの実態に沿った計画を作成し実践していることが伺えた。

(地域連携)

○「安中地区連絡会」のメンバーとして、地域の施設とのつながりや情報交換を行えた。また、コロナ禍で中止となっていた地域農園の方や近隣小学校との交流も再開できつつある。

(保護者支援)

○「ホームページ」や「園だより」「園長だより」「学級だより」などで、“保育の見える化”を図るようにした。また、送迎時の保護者との丁寧なかかわりを大切にし、信頼関係づくりを心がけてきた。保育者の自己評価からも、9割の保育者が保護者の方にとって、安心できる存在になれるように努力していることが伺えた。

○各クラスでドクメンテーションを作成している。2月末～3月初旬までの間に遊戯室に展示し自分のお子さんのクラス以外の様子を保護者に見てもらうことができた。

課題

(教育・保育内容)

○研究会に参加する回数にバラツキが見られたので、子どもたちの豊かな育ちに向けて、どの職員もが参加できるように体制を整えていきたい。また、学んだことを活かして保育者の力量につなげる努力を一人ひとりが自覚をもつようにしていきたい。

○遊びの環境づくりで「社会体験や自然体験などの機会をつくり子どもたちの成長につなげている」という点が弱い傾向にある。次年度に向けて、子どもたちの体験機会をつくり、豊かな心情を養えるようにしていきたい。

(地域連携)

○小学校のプール体験や施設の見学については実施することができたが、コロナ禍で人と人との交流が難しい面があった。次年度については、各施設長と意見を交わしながら子どもたちの健やかな成長のために計画し実行していきたい。

(保護者支援)

○保護者から安心感をもってもらえるように日頃からあたたかいコミュニケーションをとるように心がけている。多様な保護者のニーズに合わせて対応する力をつけていきたい。

改善策

○年度初めに各学年の担任間で「育てたい子ども像」について話し合いをもち、1年間の見通しをたてた保育ができるようにした。学年間の保育者一人ひとりの意識変革や協同性につながった。

○令和4年度の研究計画をもとに園内の職員全員で保育を進めていくことを確認し、思いを共有しながら取り組みを進めてきたところ、職員の意識の向上や同僚性につながった。

○子育て支援関係機関の施設(例:子ども総合支援センターほっぷなど)について、「知っている」という割合が低い傾向にあるので、令和5年度の年度当初の学習会で学ぶ機会を設けるようにした。

○不審者侵入や災害時における非常時の対応について、とっさの判断能力や対応力が問われている。日頃の避難訓練において実施後に意見を出し合い課題点を改善するように心がけた。また、課題を共有し、職種に関係なく園全体で子どもたちの安心・安全のための対策について共通の認識がもてるように努力した。

○子どもや保育者間で伝え合う言葉が肯定的になるように、機会を捉え職員会議や学習会等で学び合う機会をつくった。また、適切な保育についての意識を高めるために保育者一人ひとりがチェックシートを活用して確認する機会をつくった。